

1. 活動報告（事務局 記）

—6月6日（日）自主的に参加された会員12名で、ビオトープ全域の草刈りの作業を行いました。また作業前には、8月の水棲動物観察への子供会参加、宇部環境コミュニティの総会の内容について報告がありました。

—6月10日（木）田んぼの代鋤（代掻きともいう、9日に実施）後の巻き込まれなかった雑草が多量に浮いており辻野・河本会員と・原田会長夫婦で拾い上げようやく出来ました。

—6月20日（日）自主的に参加された会員12名で、ビオトープ全体（法面等）の除草、除去草の撤去、止水地の除草などの作業を行いました。また作業前には、休耕田の除草方法、湿地帯横の看板補修の内容について協議しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行事

—7月4日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）

—7月18日（日）維持活動（観察路・駐車場の草刈り）

—7月25日（日）維持活動（草刈り、清瀬映整備）

3. 来訪者の声

★5月29日（土）快晴、宇部マニアックス（STA202105291502）

ゴデチア畑を撮影後、久し振りに立ち寄りしました。水車が復活しましたね！良かったです。里山ビオトープ二俣瀬の顔のような存在です。FBページいつも拝見しています。草刈り等維持管理が大変だと思います。Covid19による分散した生活様式の要請より、あまり人気化し過ぎず寛げるスポットであることに満足しています。快晴で良い写真が撮れたので、いつかうちのホームページで総括生地を作成したいと思います。ひとしきり癒されて・・・さて・・・

次は何処へ行こうかな・・・

4. 会員の声 【 新入会員 】 （早崎 由美子 記）

5月の親子自然観察隊「野鳥観察」に参加し、6月6日（日）、初めて維持活動に参加をさせていただきました。朝9時から11時半まで、休憩をはさみながら、刈られた草を集めていきました。このビオトープに遊びに来た子どもたちや大人が、安全に自然を楽しんでもらうためにはとても重要な作業ですね。草を集めながら時折田んぼを覗くと小さな虫やカエルがいました。普段仕事と家事でヘトヘトですが、何にも考えずにただ草や虫や花、鳥のさえずりを楽しむ、こんな思い忘れていたなあと感慨深いものがありました。コロナ渦ではありますが、これからどんなイベントが行われるのか楽しみです。

5. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(64) エダナナフシ *Phraortes illepidus* ナナフシ科

ナナフシは2~3種類かと思っただけでしたが、日本には15種類のナナフシがいるようです。7月~9月にかけて見られますが、広葉樹林を好むようです。そっくりさんに”ナナフシモドキ”がありますが、触角が極端に短いので区別が容易です。県内では翅の生えた”タイワントビナナフシ”や体中トゲトゲの姿をした”トゲナナフシ”も見られます。

ナナフシ類はどこにでも見られませんが、1か所で見つかるとその付近でたくさん数で見つかります、特に成虫になる前では動きが遅いからと思われるのですが、集団で見つかります。なお、ナナフシは雌だけで増えてゆくという変わった昆虫です。

やはり山に入らないとなかなか見つからないムシで、特に枝にそっくり擬態しますので、余計見つかりにくいのだと思います。



エダナナフシ 触角が長い



翅のあるヤスマツトビナナフシ



ナナフシモドキ



ナナフシモドキシの頭部

参考文献

海野和男、2014. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑、255pp, (株) 誠文堂新光社、東京.

梶 真史ほか、2017. ポケット図鑑日本の昆虫 1400

① チョウ・バッタ・セミ、319pp, (株) 文一総合出版、東京

6. 会よりの連絡事項

- 1) 余ったもち米の苗を貰って、田んぼの一部に田植えしました。田んぼに入られる際にはその部分には入らないように注意してください。

7. 編集後記 (前田 歳朗 記)

先日、コロナワクチン接種の為、2～3年ぶりに在来線（山陽本線）を利用して、福岡県に出かけました。車窓からの眺めで興味を引いたのは、耕作放棄地の多さです。僅か2～3年で風景が変わったのには、驚きました。今は田植えのシーズンなので、水を張った田圃と耕作放棄地の対比が際立っています。

耕作放棄地が増えるとコメ不足になるはずですが、今年はコメが余っています。収穫量より消費量の減少の方が多いのです。NHKの資料によれば、若者のコメ消費は横ばいなのですが、高齢者のコメ消費は減少しています。少子高齢化の進む日本では、コメ余りは加速していくものと思います。しかし、なぜ高齢者のコメ消費が減少しているのでしょうか。

私は自炊をしていますが、コメを主食として料理をすると、調理・跡片付け共に、手間がかかります。小麦を原料とした、パン・めん類に比べ面倒くさく、洗い物もたくさん出ます。インスタント食品も、めん類に比べ安価で便利な商品がありません。コメの需要を増やすためには、コメそのものを売るのではなく、加工品としての開発が不可欠です。

消費量が増えている小麦ですが、殆どを輸入に頼っており、将来不足する可能性が大了。日本国内でとれる穀物を活用し、消費量を増大させることが日本の将来に向けた課題ではないでしょうか。国土保全の観点からも、農地を活用し、荒廃を防がなければなりません。我々の活動も、微力ながら国土保全の一助になっているのではないのでしょうか。